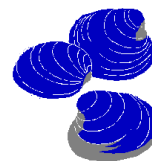


かわこ 川っ湖通信 第6号



(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/naisuimen>)

平成22年度秋季 シジミ資源量調査結果

島根県水産技術センターでは平成 22 年 10 月 6・7 日に“調査船ごず”により宍道湖のヤマトシジミ資源量調査を実施しました。

秋季資源量調査結果

宍道湖におけるヤマトシジミ全体の資源量を計算したところ、944 億個、41,403 トンと算出され、前年秋季（平成 22 年 10 月：1,714 億個・63,528 トン）に比べ、資源個体数・資源重量ともに大幅に減少しました（表 1）。

宍道湖におけるヤマトシジミ全体の資源量は平成 18 年、19 年にへい死後、僅かながら増加の傾向にありましたが、平成 22 年は春から秋にかけての資源量の増加が見られませんでした（図 1）。

表 1 平成 22 年度秋季ヤマトシジミ資源量調査結果

深度	面積 (km ²)	標本数	個体数密度 (個/m ²)	推定個体数 (億個)	重量密度 (g/m ²)	推定重量 (トン)
0～2.0m	7.7	33	4,536	349	2,079	15,987
2.1～3.0m	6.2	33	5,562	344	2,226	13,754
3.1～3.5m	4.8	32	3,895	185	1,718	8,177
3.6～4.0m	5.3	28	1,239	66	654	3,484
計	24.0	126	3,940	944	1,728	41,403

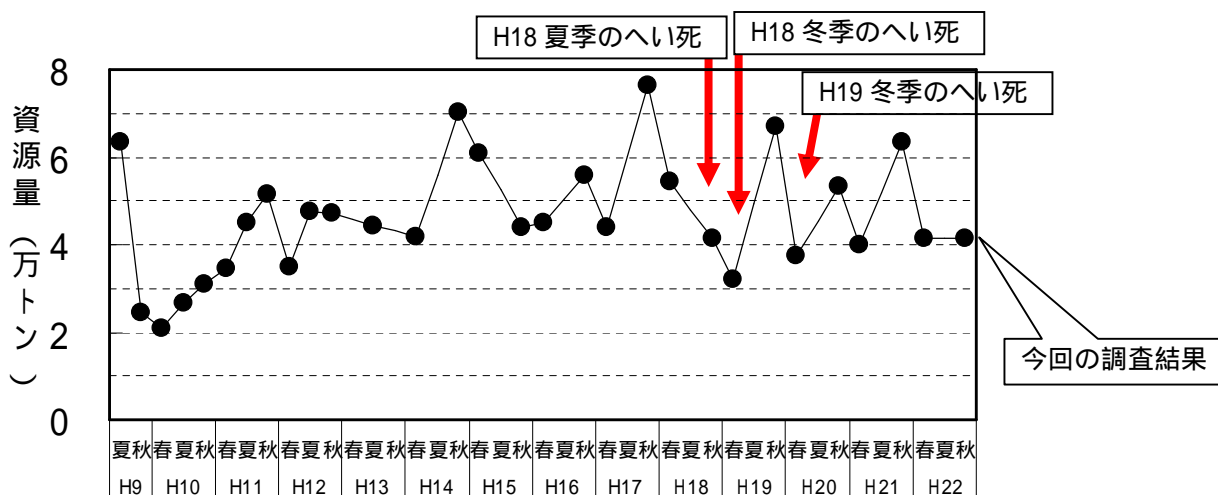


図1 宍道湖におけるヤマトシジミ資源量の変化

図2に平成21年と平成22年のヤマトシジミ資源の殻長組成を示します。ヤマトシジミは夏から秋にかけてもっとも成長する時期で、平成21年では春季から秋季にかけて殻長10mmおよび15mm前後の個体数の増加が見られました。

一方、平成22年についてはヤマトシジミの成長が思わしくなく、殻長10mm前後の個体が僅かに増加したものの、15mm以上の個体数は減少しています。それにより平成22年のヤマトシジミ全体の資源個体数は949億個（春季）から944億個（秋季）と減少し、漁獲対象資源についても60億個から44億個へと減少しています。

今年は宍道湖で夏期の高水温やアオコの発生といった例年にならぬ現象が起こっており、このことがヤマトシジミの成長に何らかの影響を与えたのではないかと考えられます。

図3に漁獲対象資源（殻長17mm以上）の資源重量の動向を示します。漁獲対象資源は平成18年の秋に1万トン、平成19年の春には5,800トンにまで減少しました。その後、漁業者が率先して資源管理に取り組んできたことにより僅かずつですが増加の傾向が見られていましたが、平成22年秋の漁獲対象資源量は約9,800トンまで減少しています。今後もモニタリング調査等を継続実施し、資源動向を注視していきます。

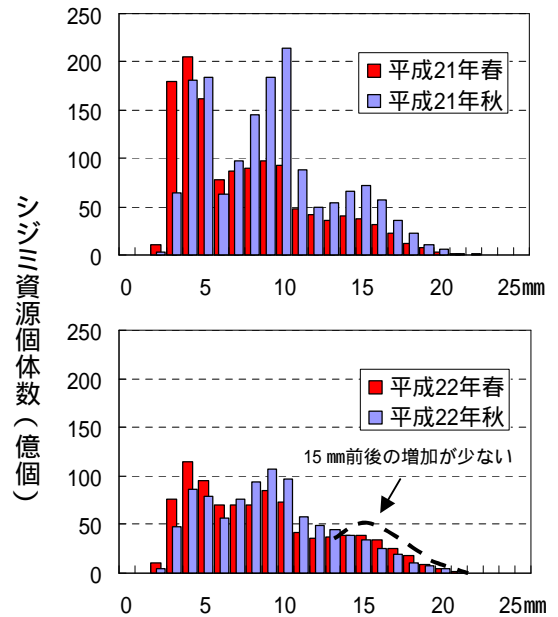


図2 殻長ごとの個体数組成

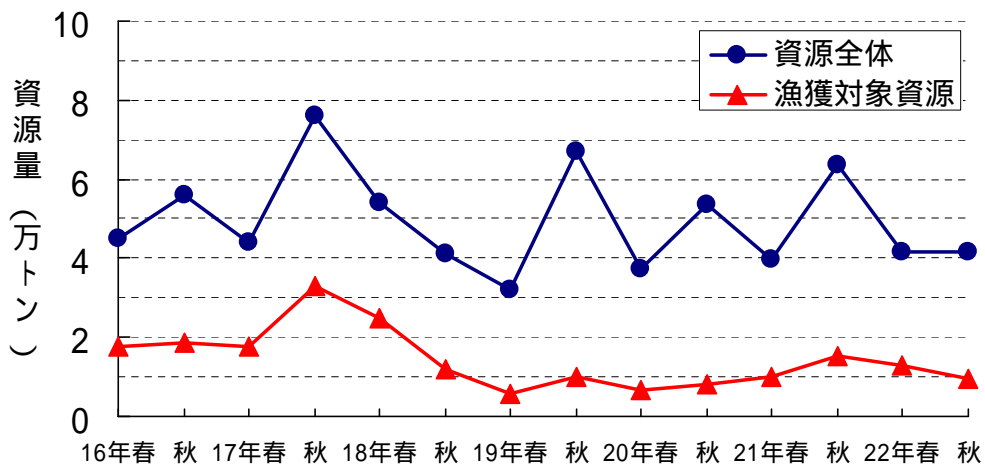


図3 漁獲対象資源重量の動向

水産技術センター内水面浅海部では漁業関係者や県民の皆様からの情報をお待ちしています。珍しい魚が捕れたり、川や湖で変わった現象などありましたら、是非下記までご連絡ください。

本誌はカラーの写真や図を使用しています。FAXでご覧の方は是非インターネットで内水面グループが運営するホームページ「島根の川と湖」にアクセスして本誌をカラーでご覧ください。

島根県水産技術センター 内水面浅海部 内水面グループ
 住所：島根県出雲市園町沖の島 1659-1
 TEL: 0853-63-5101 FAX: 0853-63-5108
 ホームページ：<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/naisuimen/>
 E-mail：suigi-naisuimen@pref.shimane.lg.jp